

音楽を事例にしたタテ・ヨコ・ナナメの文化伝播

1200449 椎野凌太

高知工科大学経済・マネジメント学群

1. 概要

高齢者は演歌や昭和歌謡などを好む傾向が高いように感じるのは何故なのだろうか。少なくとも私自身や私の友人の間では、米津玄師やあいみょんなど、今世間で流行している JPOP を聞いている 80 歳の高齢者は見つけられなかった。移り変わりの激しい現在の音楽業界の中で、現在の人の音楽の好みは、何によって影響を受け、どのように伝播されているのだろうか。そこで本研究では、今現在最も好んで聴いている音楽のジャンルは、高齢になっても好きであり続けるのか、また仮に嗜好に変化があった場合、誰から、何を經由して変化するのかを検証する。

400 人の個人に、音楽の嗜好が決まるきっかけを自由記述してもらい設問を含むアンケート調査をインターネット上で実施した。アンケートの結果、今現在好んで聴いている音楽のジャンルをずっと好きでい続ける可能性が高いことが示唆された。また、音楽の嗜好の変化は横方向の伝播経路の割合が最も高いことが明らかになった。

2. 序論

1. 現在、音楽業界は変化が激しく、インターネットの普及に伴い音楽の宣伝手法は Push 型から Pull 型に変化した。コマーシャルなどを通じて一方的に押し付ける (Push 型) 形から、消費者自ら

がインターネット上で検索エンジン等を使い情報を得る (Pull 型) 形になった。(明石, 2018) しかし、実際には全ての消費者が能動的に情報を得ようとするとは考えづらい。人が音楽を好きになる過程には、親の影響を受けるといった、人と人のかかわりが関与しているのではないだろうか。本研究では、人々がどのようにして好みの音楽に出会うのか、そしてその音楽は年齢を経るにつれ変化するのか、を検証する。

Bisin A.、Verdier T. (2008) は、「世代間および世代内での社会的相互作用の結果である、嗜好、信念、行動規範の伝達」を「文化伝播」と紹介している。人と人とのつながりによる音楽の嗜好の変化も文化伝播のひとつであると考えられる。また澤田 (2019) は、子どもの人間関係を 3 つの方向からとらえ、子どもと親や担任教師のような関係をタテの関係、友達同輩同士の関係をヨコの関係、親や担任といった直系的関係ではない大人との関係をナナメの関係と定義した。

Kenneth French (2017) は、音楽の文化伝播と地理学の深いつながりについて述べ、音楽の文化伝播には、ある人から別の人への現象の伝達による伝染性拡散と、主要な都市部から別の都市部に飛ぶことによる階層的な拡散があることを示した。

しかし、本研究と完全に一致するような研究は実施されていなかった。

	ジャンル	例
1	クラシック	交響曲・管弦楽・協奏曲・室内楽・舞台音楽・声楽
2	民謡音楽	民謡・ハワイアン・ラテン音楽・フラメンコ・シャンソン ・カンツォーネ・ヨーデル・ラグタイム・カントリー
3	ジャズ	クロスオーバー・FUSION・スムーズジャズ・AOR
4	洋楽ロック	外国人のロック歌手、グループ
5	邦楽ロック	日本人のロック歌手、グループ
6	演歌	演歌
7	昭和歌謡曲	アンルイス・イルカ・八神純子など、昭和の歌手、グループ
8	ブラックミュージック	ブルース・ゴスペル・レゲエ・ソウル・ヒップホップ・R&B
9	アニメソング	声優やアニメソング歌手が歌う楽曲、アニメの中で使われる音楽全般
10	エレクトロニカ・電子音楽	テクノ・ハウス・クラブ・トランス・ボカロ・ゲーム等のBGM
11	その他ポップス	上記以外

表 3.1 ジャンルの具体例

そこで本研究では、アンケートの結果をもとにタテ・ヨコ・ナナメの文化伝播と、年代ごと、地域ごとにそれぞれデータ要約を行い、それらを組み合わせてデータを検証する。

3. 実験手法

インターネット上にアンケートを用意し、個人 400 名を対象に回答してもらった。アンケート内容は年代、居住地などのパーソナルな部分の他、一週間に聴く音楽の頻度や音楽の嗜好を問う設問を用意した。また音楽の嗜好が決まる要因を測定するため、音楽の嗜好が決まったきっかけや今現在それが変化しているかどうかを自由記述してもらった欄を作成した。アンケートは 20 代～60 代の男女を対象としており、20 代～30 代、40 代～50 代、60 代以上でそれぞれ農村部と都市部に分けた。また、農村部と都市部のそれぞれの人数は 20 代～30 代、40 代～50 代で 67 人ずつ、60 代以上はそれぞれ 66 人ずつで集計した。

最初に今現在最も好んで聴いている音楽のジャンルを 11 の選択肢から選んでもらい、誰から、何を經由して好きになったかを自由記述してもらった。ジャンルの具体例については、上記の表 3.1 の通りである。次に音楽の嗜好が変化したかどうかを問う質問項目を用意した。音楽の嗜好が変化した人に対しては、以前最も好んで聴いている音楽のジャンルを選択してもらい、音楽の嗜好が変わったきっかけを自由記述してもらった。加えて、一週間のうち何日音楽を聴くか、一日に何時間音楽を聴くかの質問項目を設けた。本研究での「音楽を聴く」の定義は、自分の意思でその音楽に触れること、とし、ラジオやテレビをつけていたまま流れてきた音楽を聴いている状態は「音楽を聴くこと」には含まないこととした。本研究ではメインの尺度として「今現在好んで聴いているジャンル」と「文化伝播経路」を採用した。この 2 つの尺度が年代や居住地等、どのような要因から影響を受けているかを分析する。

4. 結果

表 4.1 は年代別の音楽の嗜好を示した表である。全体の傾向を見ると、邦楽ロックが 20.3%、その他ポップスが 15.8%の被験者が好んでいるという結果が得られた。自由記述欄からは、この 2 つのジャンルに関しては、メディア等で流通しており耳に入りやすい

という意見が多く得られた。年代ごとの傾向を見ると、20～30 代では邦楽ロックが 29.1%、アニメソングが 21.6%という結果が得られ、若い世代でのアニメの影響が示唆された。40 代～50 代では好みのジャンルにばらつきが見られたが、邦楽ロックが 23.9%と他ジャンルと比して最も高い割合を表す結果が得られた。60 代以上では、昭和の歌謡曲が 21.2%、クラシックが 19.7%、演歌が 17.4%という結果が得られ、20～50 代に比して好みのジャンルに差異が見られた。特に演歌に関しては、20～30 代が 0.7%、40～50 代が 2.2%であるのに対して 60 代以上では 17.4%という結果が得られ、他の年代に比して 60 代以上のグループが演歌に強い関心を抱いていることが示唆された。

変数名	20～30代		40～50代		60代以上		全体	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
クラシック	11	8.2%	17	12.7%	26	19.7%	54	13.5%
民謡音楽	4	3.0%	1	0.7%	2	1.5%	7	1.8%
ジャズ	5	3.7%	6	4.5%	9	6.8%	20	5.0%
洋楽ロック	14	10.4%	17	12.7%	9	6.8%	40	10.0%
邦楽ロック	39	29.1%	32	23.9%	10	7.6%	81	20.3%
演歌	1	0.7%	3	2.2%	23	17.4%	27	6.8%
昭和の歌謡曲 (1926年～1988年)	2	1.5%	20	14.9%	28	21.2%	50	12.5%
ブラックミュージック	3	2.2%	3	2.2%	2	1.5%	8	2.0%
アニメソング	29	21.6%	10	7.5%	0	0.0%	39	9.8%
エレクトロニカ・電子音楽	6	4.5%	3	2.2%	2	1.5%	11	2.8%
その他ポップス	20	14.9%	22	16.4%	21	15.9%	63	15.8%
合計	134	100.0%	134	100.0%	132	100.0%	400	100.0%

表 4.1 年代別の音楽の嗜好

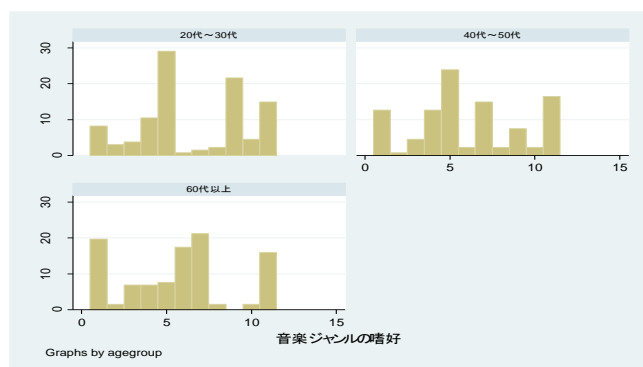


図 4.1 年代別の音楽の嗜好

変数名	農村部 (200人)		都市部 (200人)		Overall	
	度数	%	度数	%	度数	%
クラシック	18	9.0%	36	18.0%	54	13.5%
民謡音楽	5	2.5%	2	1.0%	7	1.8%
ジャズ	9	4.5%	11	5.5%	20	5.0%
洋楽ロック	20	10.0%	20	10.0%	40	10.0%
邦楽ロック	46	23.0%	35	17.5%	81	20.3%
演歌	12	6.0%	15	7.5%	27	6.8%
昭和の歌謡曲 (1926年～1988年)	29	14.5%	21	10.5%	50	12.5%
ブラックミュージック	5	2.5%	3	1.5%	8	2.0%
アニメソング	25	12.5%	14	7.0%	39	9.8%
エレクトロニカ・電子音楽	6	3.0%	5	2.5%	11	2.8%
その他ポップス	25	12.5%	38	19.0%	63	15.8%
Total	200	100.0%	200	100.0%	400	100.0%

表 4.2 居住地における音楽の嗜好

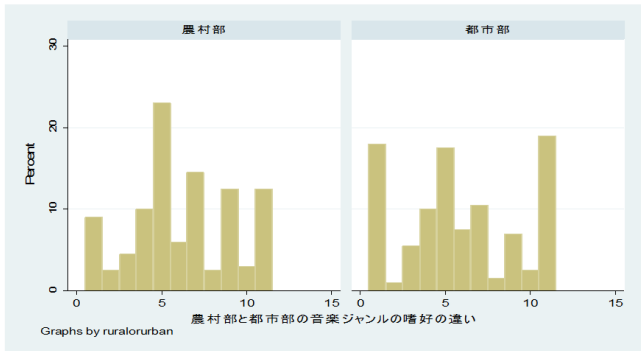


図2 居住地における音楽の嗜好の違い

表4.2は居住地における音楽の嗜好を示した表である。農村部と都市部の音楽の嗜好を比較すると、クラシックを除いて大きな差異は見られなかった。クラシック好きの割合は、農村部が9%に対して都市部では18%という結果が得られた。アンケートの自由記述からは、クラシックを好む理由として「心が落ち着くから」といった自身の情緒の為に聴いているという記述がいくつか見られ、クラシックは情緒を安定させる作用を持つ可能性が示唆された。

居住地域における音楽文化伝播の違いを示したのが表4.3である。表4.4の「音楽の文化伝播経路の具体例」では音楽が誰から、どのように伝播されたかを示している。伝播経路の分け方は、澤田(2018)や全(2018)のタテ・ヨコ・ナナメの関係を参考にした。分析の際は伝播経路と数字を対応させ、タテ方向の伝播経路は0、ヨコ方向を1、ナナメ方向を2、その他を3と設定した。農村部と都市部を合わせた音楽の文化伝播の傾向を見ると、タテが11.8%、

ヨコが44.5%、ナナメが0.8%、その他が43.0%という結果が得られ、音楽の文化伝播ではヨコの文化伝播が非常に高い割合を占めていることが示唆された。ナナメの文化伝播は、全体の0.8%であり、音楽の文化伝播経路としてはあまり見られない伝播経路であることが分かった。

変数名	農村部 (200人)		都市部 (200人)		Overall	
	度数	%	度数	%	度数	%
タテ	22	11.0%	25	12.5%	47	11.8%
ヨコ	100	50.0%	78	39.0%	178	44.5%
ナナメ	1	0.5%	2	1.0%	3	0.8%
その他	77	38.5%	95	47.5%	172	43.0%
Total	200	100.0%	200	100.0%	400	100.0%

表4.3 居住地における音楽文化伝播の違い

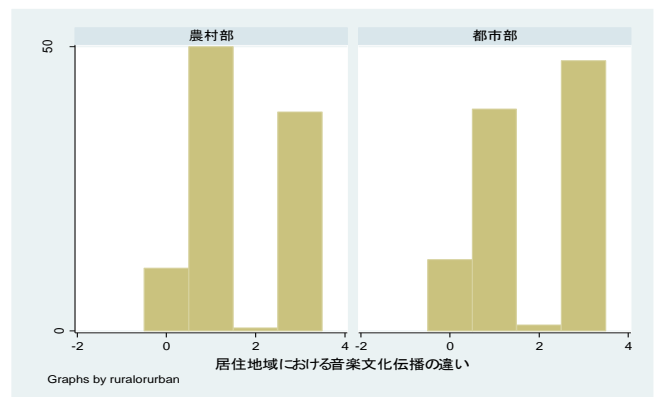


図4.3 居住地における音楽文化伝播の違い

変数	文化伝播経路	内訳	回答例
0	タテ	親子間	父の影響
		従属関係	学校の先生に教えてもらった
		昔からの名残	中学、高校生の頃によく聴いていて懐かしいから
		同世代の友人	高校時代の友人の影響
1	ヨコ	兄弟・姉妹	小さい頃に姉が好きでよく聴いていたのをそばで聴いて好きになった
		メディア全般	中学生時代にラジオの洋楽リクエスト番組を知ってから
		実体験	カンツオーネの方の生歌をきいてからリズムがとりやすいので聞くようになった
		自身の周囲の環境	高校生のときに流行っていた
2	ナナメ	加齢による自身の感性の変化	歳をとって騒がしい音楽を聞くと疲れる様になり、クラシックを聴くようになった
		気が付いた頃には	少年の頃、ラジオから流れる歌謡曲が自然に身に付いた
		叔父叔母、祖父母など	中学校の時、叔父にギターをもらいそこから邦楽ロックにはまった
		血縁関係のない親しい他人	高校のときの先輩がよく聞いていた音楽に影響されて聞くようになった
3	その他	消去法で選んだ	他にわかる音楽がない
		もともと聴かない	
		覚えていない	
		特にない	元々あまり音楽を聴かないので流しても邪魔にならないものを選択して聴いている
		質問の答えになっていない	

図4.4 音楽の文化伝播の具体例

表 4.5 は嗜好の変化の有無を含む居住地における音楽文化伝播の違いを示した表である。農村部と都市部を合わせた傾向を見ると、変化ありのグループは変化なしのグループに比してタテとヨコの割合が高くなり、ナナメとその他の割合が低くなっている。その他の理由には表 4.4 にもあるように、消極的なものが多く、タテとヨコの理由には明確なきっかけがあるものが多かった。このことから、音楽の嗜好が途中で変化する人はタテかヨコいずれかの伝播経路を通じて、かつ明確な理由を持って変化している人が多いということが読み取れる。農村部および都市部の他の割合に着目すると、変化ありのグループは変化なしのグループに比して高い割合を示した。しかし農村部のタテの伝播経路に関してのみ、変化ありのグループは変化なしのグループに比して僅かに高い割合になるという結果が得られた。

変数名	農村部 (200人)				都市部 (200人)				Overall			
	変化あり		変化なし		変化あり		変化なし		変化あり		変化なし	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
タテ	4	10.5%	18	11.1%	4	14.3%	21	12.2%	8	12.1%	39	11.7%
ヨコ	20	52.6%	80	49.4%	13	46.4%	65	37.8%	33	50.0%	145	43.4%
ナナメ	0	0.0%	1	0.6%	0	0.0%	2	1.2%	0	0.0%	3	0.9%
その他	14	36.8%	63	38.9%	11	39.3%	84	48.8%	25	37.9%	147	44.0%
Total	38	100.0%	162	100.0%	28	100.0%	172	100.0%	66	100.0%	334	100.0%

表 4.5 居住地における音楽文化伝播の違い
(嗜好変化あり・なし)

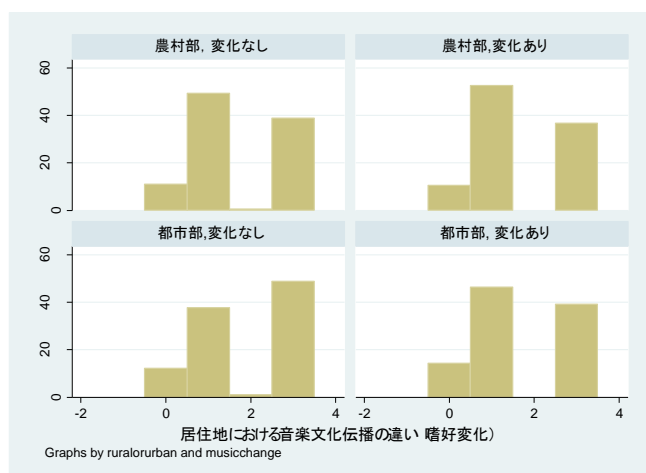


表 4.5 居住地における音楽文化伝播の違い
(嗜好変化あり・なし)

5. 結論

本研究においては、今現在最も好んで聴いている音楽のジャンルは変化するのか、変化があった場合、誰から、何を經由して変化するのかを検証した。アンケート調査の結果、被験者の 84%が音楽の嗜好に変化はないと回答し、今現在最も好んで聴いている音楽のジャンルは、高齢になっても好きであり続ける可能性が高いことが明らかになった。

また、音楽の嗜好の変化は横方向の伝播経路の割合が最も高いことが明らかになった。人々は、同世代の友人やメディアなどをきっかけに音楽の嗜好が変化する可能性が高いということである。

6. 参考文献

- French, K. (2017). Geography of American rap: rap diffusion and rap centers. *Geojournal*, 82(2), 259-272.
- Bisin A., Verdier T. (2008). Cultural Transmission. *The new palgrave dictionary of economics*. 1225-1229.
- 澤田. (2018). 子どもにとって「ナナメの関係」はどのような役割を果たしているのか —生徒指導・進路指導において児童生徒の多面性を受容する存在として—. *安田女子大学大学院紀要*, 24, 29-43.
- 明石. (2018). 1990年代の音楽業界とその後、そして未来に関する考察. *洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学リポジトリ*, 87-95.
- 全(2018). <研究ノート>学習者中心の学級づくりに向けた特別活動と学級経営に関する予備的考察 —「ヨコ」と「ナナメ」の関係の質を高める「ピア」活動を手がかりに—. *Journal of Education and Research for Regional Alliances*, 29-43.
- 生稲, 勝又, 一小路, 半澤, 和田, 野島. (2010). デジタル化がもたらすコンテンツ業界全体の転換に関する, 生産・流通・消費の一貫研究-音楽業界における消費者調査から. *電気通信普及財団 研究調査報告書*, 25, 58-68.

